

審査の結果の要旨

論文題目：

Visual Analysis
of Katsura Rikyu Formal Elements in Relation to Tobiishi Pattern
(桂離宮庭園における飛び石パターンの視覚的分析)

氏名： コンチャレヴィック ボヤン ミラン

本論文は桂離宮庭園における飛び石のパターンを視覚的に分析し、それが庭園の景観及びそこでの視覚体験にどのような影響を与えるかを考察したものである。

桂離宮庭園の小道に使用されている飛び石は、人工的な形態と自然の形態の組み合わせで構成され、経路を構成する飛び石の分布パターンは、庭園における視覚的体験に大きな影響を及ぼしていると考えられる。小道の経路及び庭園の環境と、飛び石の分布パターンの関係性を分析することで、桂離宮庭園の持つ美学的特性の一端を数値的に明らかにしようとするのが本論文の目的である。これまで桂離宮庭園については、その平面構成、景観及び形態の観点から多くの議論がなされてきたが、庭園の飛び石といった要素の分布に着目した議論はなかった。本論文では、これらの飛び石の分布パターンに着目し、視覚的側面と形態的側面を比較しながら、それらが庭園の景観構成に及ぼす影響を明らかにしようとしている。

本論文は7つの章で構成されている。第1章では研究の背景と目的及び研究対象に着目するに至った理由と参考事例が述べられ、第2章では研究の仮説として、飛び石のパターンが庭園にどのような視覚的効果を与えるかを、庭園の設計理論を参照としながら論じている。

第3章では本論文の理論的背景を構築すべく、歴史及び宗教的観点からの桂離宮論、茶室及び茶会における視覚体験と踊り口といった茶室特有の設え、庭園景観における人工及び自然環境、またその制御方法といった複数の観点から多角的な理論構築を試みている。

第4章は桂離宮の設計手法論となっている。庭園の景観、要素の形態、小道、来宮者

の経路など、緻密にコントロールされていると言われる桂離宮庭園の設計手法と禅の理念の関係性について、庭園の平面図などと比較しながら論じている。

第5章では、調査方法を整理するとともに、人間の視覚に近似させた独自の飛び石パターンの実測方法を考案し、行った調査結果を示している。アンリ・ベルクソンを参照し、庭園の形態の表現と体験者の認知のされ方を比較しながら、人体の動作がいかに視覚的体験に影響を与えるかを考察している。

第6章は実測調査をもとに飛び石の分布を12のパターンに分類し、それぞれについて形態が視覚的体験に及ぼす影響を分析し、飛び石のパターンが視覚にどのような影響を与えるかを明らかにしている。

第7章は実測調査の分類と考察を行い、本論文の結論としている。飛び石が繰り返す規則的なリズム感が視覚的に及ぼす影響は大きく、また展望として現代の建築設計理論への応用可能性について述べた。

本論文は、桂離宮庭園の小道の飛び石パターンという独創的なテーマに着目しながら、それが庭園の景観及び歩行者の視覚的体験に大きく影響を及ぼすことを実測調査から明らかにしたことが評価できる。またそれらの構成要素の形態や分布パターンと人間の知覚認識を独自の設計理論として構築したことは、建築の意匠分野の研究に大きな寄与をなしたものと判断できる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。